

令和 4 年 6 月 6 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17H02309

研究課題名(和文) 近世前期和漢聯句の基礎的研究

研究課題名(英文) The fundamental study of The Japanese and Chinese linked verse in the early Edo period

研究代表者

長谷川 千尋 (Hasegawa, Chihiro)

京都大学・人間・環境学研究科・准教授

研究者番号：90431296

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,900,000円

研究成果の概要(和文)：和漢聯句は、奇数句に五七五の長句、偶数句に七七の短句を詠み連ねる連歌と、漢詩の五言句を押韻しながら連ねる聯句とを折衷させた文芸である。京都の曼殊院には、和漢聯句資料が多数伝存することが知られていたが、非公開につき、その全容を知ることはできなかった。今回、特別な許可を得て、室町時代の文明年間から江戸時代の延宝年間に至る百韻47巻、千句4点の和漢聯句作品全てを翻刻し、『曼殊院蔵和漢聯句作品集』として出版した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

和漢聯句は、室町時代後期から近世初期にかけての禁裏を中心に盛行した文芸として重要であるが、和漢の幅広い知識を要する難解さもあって、国文学の中では研究が遅れている。近年、作品の本文の提供という研究の基盤がようやく整えられつつある。その中でも『曼殊院蔵和漢聯句作品集』に収めた曼殊院本は、大半が孤本であり、一部には懐紙を含むなど、資料的価値が高い。翻刻にあたっては、和句には濁点を付し、漢句は原本に施された訓点や注記等も忠実に翻刻し、利用の便宜を図った。

研究成果の概要(英文)：'Wakanrengu' is the literary art that let antithesis of Chinese poem of the Chinese poetry make a compromise with Japanese linked poem. It was known by Manshu-in Temple of Kyoto that a lot of 'Wakanrengu' documents made existing in a legend, but, about secrecy, was not able to know the whole aspect. We got special permission this time and reprinted 47 form of 'Hyakuin' and 4 form of 'Senku' that the Bunmei era year of the Muromachi era reached in the Enpo era year of the Edo era, all the 'Wakanrengu' works and published it as "Manshu-in Temple storehouse 'Wakanrengu' work collection".

研究分野：日本古典文学

キーワード：和漢聯句

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

和漢聯句は、国文学の諸領域において研究が遅れている分野である。近年、研究代表者や研究分担者が所属する京都大学の研究グループにより、和漢聯句の現存作品を時代順に網羅した『室町前期和漢聯句作品集』(臨川書店、2008年)、『室町後期和漢聯句作品集』(同、2010年)、『慶長・元和和漢聯句作品集』(同、2018年)が順次刊行され、近世極初期までの和漢聯句の研究基盤は、ようやく整いつつある。しかし、京都の曼殊院にまとまって伝わるのが報告されている一連の和漢聯句作品については、非公開につき、手つかずのままであった。今般、所蔵者の特別な許可を得ることができたため、曼殊院に所蔵される和漢聯句作品の全てを翻刻し、『曼殊院蔵和漢聯句作品集』として出版する計画を立てた。

2. 研究の目的

本研究は、作品の本文の提供という、和漢聯句の基礎的研究の推進を目的とするものである。とりわけ曼殊院に蔵される和漢聯句作品は、百韻47点、千句4点の多数に及び、そのほとんどが既刊の『和漢聯句作品集』3冊には収録されていない孤本である。しかも、作品成立当時の懐紙を含むなど、資料的な価値が高い。作品の年代は、室町時代の文明年間から江戸時代の延宝年間までに亘っており、曼殊院本によって、禁裏の和漢聯句御会の作品を一望することができる。

そこで、研究会を開催して、これらの作品を輪読しつつ、翻刻集を出版することを第一の研究課題とする。また、特に価値が高いと認められる作品については、輪読の成果をもとに評釈をまとめることを第二の研究課題とする。

3. 研究の方法

曼殊院本については、原本閲覧の許可が得られなかったため、まずは、かつて京都大学文学部国語学国文学研究室が調査に入った折に撮影した写真のネガフィルム(劣化が進んでいた)を、影印が刊行されているもの以外は全て電子化し、資料整理を行った。

次に、この画像をもとに翻刻作業にかかった。翻刻にあたっては、和句には濁点を付す方針であるため、作品の正確な読解が前提となる。漢句も、漢字の異体字や誤字略字を多く含むため、ほとんどが孤本で本文を対校することができない曼殊院本の場合は特に、漢句の判読は困難を極める。課題遂行のためには、作品の輪読と翻刻の両輪を進めることが不可欠である。そこで、月例で研究会を開催し、国文学中国文学の専門の異なる参加者が意見を出し合い、できる限り多くの作品を解読できるように努めた。翻刻集の原稿作成後は、執筆者による全原稿の検討会を繰り返し開催し、本文についての討議を重ねた。

4. 研究成果

(1)当初計画通り、研究期間の最終年度である2022年2月に、京都大学和漢聯句研究会編『曼殊院蔵和漢聯句作品集』を臨川書店より刊行した。本書の構成は以下の通りである。

序

凡例

【一】文明十一年閏九月四日和漢聯句「蝶は夢」(下平声一先韻)

【二】文明十三年七月二日和漢聯句「かぜかよふ」(上平声十四寒韻)

【三】文明十三年七月二十一日和漢聯句「名にたてど」(下平声一先韻)

【四】文明十四年六月六日和漢聯句「声かるし」(上平声二冬韻)

【五】文明十六年九月七日和漢聯句「まだきより」(上平声十灰韻)

【六】文明十七年四月七日和漢聯句「あをによし」(上平声十灰韻)

【七】文明十七年九月七日和漢聯句「花よいか」(上平声十一真韻 初折、下平声九青韻 二・三折、下平声一先韻 名残折)

【八】文明十七年十一月九日和漢聯句「雪の松」(下平声八庚韻)

【九】文明十九年五月二十六日和漢聯句「雲は花」(下平声七陽韻)

【一〇】文明年間月日未詳和漢聯句「花や千世」(下平声二蕭韻)

【一一】長享元年八月十二日和漢聯句「都には」(上平声一東韻)

【一二】延徳元年十一月十日和漢聯句「紅の」(下平声八庚韻)

【一三】永正元年月日未詳和漢聯句「山水の」(上平声八齊韻)

- 【一四】永正二年八月十日和漢聯句「秋にかへる」（下平声八庚韻）
- 【一五】永正三年五月十日和漢聯句「こやかほる」（上平声六魚韻）
- 【一六】永正六年正月二十五日和漢聯句「山もいさ」（上平声十四寒韻）
- 【一七】永正六年九月十三日和漢聯句「てりそふも」（下平声八庚韻）
- 【一八】永正六年十月十日和漢聯句「松かげは」（下平声九青韻）
- 【一九】永正七年九月十日和漢聯句「摘残す」（上平声八齊韻）
- 【二〇】永正七年九月三十日和漢聯句「神無月」（上平声一東韻）
- 【二一】永正八年三月三十日和漢聯句「花のあとに」（下平声八庚韻）
- 【二二】永正八年八月十日和漢聯句「秋や時」（下平声三肴韻）
- 【二三】永正十年二月二十五日和漢聯句「山松を」（上平声十一真韻）
- 【二四】永正十年十月十八日和漢聯句「霜おちて」（下平声四豪韻）
- 【二五】永正十二年二月十六日和漢聯句「あやにくに」（上平声七虞韻）
- 【二六】永正十二年四月十日和漢聯句「下折の」（上平声十灰韻）
- 【二七】永正十三年七月二十九日和漢聯句「折えむは」（下平声十蒸韻）
- 【二八】永正十五年三月十日和漢聯句「花ぞ飛」（下平声三蕭韻）
- 【二九】永正十五年十月十二日和漢聯句「ひと時雨」（下平声九青韻）
- 【三〇】永正十八年二月十七日和漢聯句「かすむ色も」（下平声十蒸韻）
- 【三一】永正年間月日未詳和漢聯句「五月雨を」（下平声四豪韻）
- 【三二】享祿二年五月十四日和漢聯句「橘は」（上平声一東韻）
- 【三三】天文十八年四月四日和漢聯句「なが鳴も」（下平声十四寒韻）
- 【三四】天文二十三年正月二十九日和漢聯句「山も世に」（上平声八庚韻）
- 【三五】天文二十三年十月和漢千句
- 【三六】永祿十二年五月二十三日漢和聯句「梅潦欣逢月」（上平声四支韻）
- 【三七】元龜二年四月十六日和漢聯句「子規」（上平声四支韻）
- 【三八】天正十九年四月和漢千句
- 【三九】文祿二年四月和漢千句
- 【四〇】文祿二年十一月二十六日和漢聯句「霜をふる」（下平声一先韻）
- 【四一】文祿四年正月二十六日和漢聯句「風しるし」（下平声十一尤韻）
- 【四二】慶長九年九月和漢千句
- 【四三】慶長十三年二月四日和漢聯句「菊もやは」（下平声八庚韻）
- 【四四】元和七年十一月十六日漢和聯句「紅竹雪添色」（下平声八庚韻）
- 【四五】元和八年三月十五日漢和聯句「文声鶯百喜」（下平声七陽韻）
- 【四六】元和八年五月二十六日漢和聯句「竹新窓吸翠」（下平声一先韻）
- 【四七】延宝五年五月三日和漢聯句「こゝろよき」（下平声七陽韻）
- 【四八】年次未詳和漢聯句「声の色に」（下平声十二侵韻）
- 【四九】年次未詳和漢聯句「散花も」（下平声七陽韻）
- 【五〇】年次未詳和漢聯句「春はけふ」（下平声一先韻）
- 【五一】年次未詳和漢聯句「山とをし」（下平声十二侵韻）

曼殊院蔵和漢聯句作品目録

翻刻にあたっては、和句には濁点を付し、漢句は原本に施された訓点や注記等も忠実に翻刻し、利用の便宜を図った。

(2)上記【二七】の永正十三年の和漢聯句作品は、後柏原天皇の禁裏において、知仁親王（後

の後奈良天皇)、冷泉為広、姉小路濟繼、三条西公条らが参加した御会のもので、重要な作品の一つとして、輪読の成果を訳注にまとめた。輪読担当者であった渡邊樹、王格格、宮武衛の共著論文「永正十三年七月二十九日和漢聯句(初折)訳注」は、『国語国文』第91巻第5号(2022年5月)に掲載された。二折以下、名残折までの訳注も、同紙に順次掲載される予定である。

既刊の『和漢聯句作品集』3冊に、上記『曼殊院蔵和漢聯句作品集』の研究成果が加わったことにより、室町時代前期から近世極初期に至る和漢聯句作品については、事実上網羅されたことになる。和漢聯句研究にとって大きな前進であったと言えよう。

今後の課題としては、『慶長・元和和漢聯句作品集』に収録できなかった、慶長・元和頃のものとは推定される年次未詳作品が、未翻刻のまま残されている。また、近世前期以降の和漢聯句作品についても、多数現存していると予想され、資料収集から着手されなければならない。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計22件（うち査読付論文 20件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 大谷雅夫	4. 巻 2
2. 論文標題 和漢聯句	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東アジア文化講座	6. 最初と最後の頁 310-314
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤嶺孝仁, 國部真貴子, 竹島一希	4. 巻 51
2. 論文標題 天正十六年閏五月八日張行漢和聯句：翻刻と解題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国語国文学研究	6. 最初と最後の頁 15-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大山 和哉 川崎 美穂, 河村 瑛子, 中村 健史 野澤 真樹	4. 巻 39
2. 論文標題 慶長五年十二月二十日和漢聯句訳注(下)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 京都大学国文学論叢	6. 最初と最後の頁 p.65-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大谷雅夫	4. 巻 87(8)
2. 論文標題 和漢聯句の楽しみ(1)『慶長元和和漢聯句作品集』を読む	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国語国文	6. 最初と最後の頁 p.34-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大谷雅夫	4. 巻 87(9)
2. 論文標題 和漢聯句の楽しみ(2)『慶長元和和漢聯句作品集』を読む	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国語国文	6. 最初と最後の頁 p.1-16
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大谷雅夫	4. 巻 87(10)
2. 論文標題 和漢聯句の楽しみ(3)『慶長元和和漢聯句作品集』を読む	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国語国文	6. 最初と最後の頁 p.37-57
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 楊昆鵬	4. 巻 87(6)
2. 論文標題 和漢聯句における述懐の題材と連想	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国語国文	6. 最初と最後の頁 p.34-55
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 楊昆鵬	4. 巻 86(5)
2. 論文標題 後陽成院の和漢聯句と聯句	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国語国文	6. 最初と最後の頁 p304-318
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大山和哉, 川崎美穂, 河村瑛子, 中村健史, 野澤真樹	4. 巻 37
2. 論文標題 慶長五年十二月二十日和漢聯句訳注(上)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 京都大学国文学論叢	6. 最初と最後の頁 p39-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村健史	4. 巻 42
2. 論文標題 新収 慶長十七年八月十七日和漢聯句 紹介と翻刻	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 人間文化	6. 最初と最後の頁 p1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡邊樹・王格格・宮武衛	4. 巻 91(5)
2. 論文標題 永正十三年七月二十九日和漢聯句(初折)訳注	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国語国文	6. 最初と最後の頁 p34-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡邊樹・王格格・宮武衛	4. 巻 91(6)
2. 論文標題 永正十三年七月二十九日和漢聯句(初折)訳注	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国語国文	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 中村健史
2. 発表標題 後水尾院の和歌と漢詩文
3. 学会等名 人文学会第24回研究発表会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 竹島一希
2. 発表標題 連歌から和漢聯句へ
3. 学会等名 和漢比較文学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 河村瑛子・大山和哉・川崎美穂
2. 発表標題 和漢聯句を読む
3. 学会等名 和漢比較文学会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 大谷雅夫	4. 発行年 2019年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 335
3. 書名 和漢聯句の楽しみ : 芭蕉・素堂両吟歌仙まで	

1. 著者名 京都大学和漢聯句研究会	4. 発行年 2018年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 316
3. 書名 慶長・元和和漢聯句作品集	

1. 著者名 京都大学和漢聯句研究会	4. 発行年 2022年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 318
3. 書名 曼殊院蔵和漢聯句作品集	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大谷 雅夫 (Otani Masao) (80152172)	京都大学・文学研究科・名誉教授 (14301)	
研究分担者	大谷 俊太 (Otani Shunta) (60185296)	京都女子大学・文学部・教授 (34305)	
研究分担者	金光 桂子 (Kanamitsu Keiko) (30326243)	京都大学・文学研究科・教授 (14301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	河村 瑛子 (Kawamura Eiko) (80781947)	京都大学・文学研究科・准教授 (14301)	
研究分担者	楊 昆鵬 (Yo Konho) (60712180)	武蔵野大学・文学部・准教授 (32680)	
研究分担者	竹島 一希 (Takeshima Kazuki) (10733991)	京都府立大学・文学部・准教授 (24302)	
研究分担者	中村 健史 (Nakamura Takeshi) (50753505)	神戸学院大学・人文学部・准教授 (34509)	
研究分担者	大山 和哉 (Oyama Kazuya) (50803087)	同志社大学・文学部・助教 (34310)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関